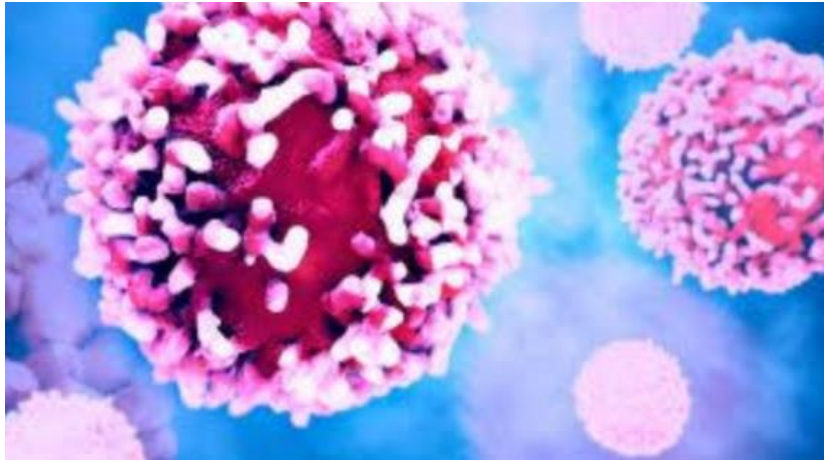


膵がんのがん素因遺伝子の変異

がん素因遺伝子のはたらきは、乳がんや卵巣がん、大腸がんなどで知られており、家族性発癌リスクの高い個人の同定に役立っています。



Mayo Clinic の Hu らは、がん素因遺伝子と膵がんの関連を検討した結果、CDKN2A (0.3%; オッズ比 12.33) ・ TP53 (0.2%; 6.70) ・ MLH1 (0.13%; 6.66) ・ BRCA2 (1.9%; 6.20) ・ ATM (2.3%; 5.71) ・ BRCA1 (0.6%; 2.58) が有意に多くみられたことを「The Journal of the American Medical Association」誌に報告しました。



疫学的調査では膵がんの 1-2 割が遺伝的素因を持つとされてきましたが、この調査では膵がん家族歴を持つ患者の 7.9%、家族歴のない患者でも 5.2%でがん関連変異を有することが明らかにされました。